

## 講義Ⅲ-②

# 共通評価項目の見直しについて (乳児院、母子生活支援施設)

評価者フォローアップ研修(共通コース)

令和3年4月開催

東京都福祉サービス評価推進機構

この講義では、講義Ⅲの1に引き続き、令和2年度に共通評価項目の見直しを行ったサービスのうち、乳児院、母子生活支援施設について説明します。

## 講義内容

- 1 乳児院の項目見直しについて
- 2 母子生活支援施設の項目見直しについて
- 3 評価手法について(変更なし)
- 4 お願い

講義内容は3点です。

1点目は、乳児院の項目見直しについて。

2点目は、母子生活支援施設の項目見直しについて。

3点目は、評価手法について。

4点目は、今後の評価に関するお願いについてです。

# 1 乳児院の項目見直しについて

まずは、乳児院の項目見直しについて説明します。

## ① サービス提供のプロセス項目

6-1-1	子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している
6-2-1	サービスの開始にあたり保護者等に説明し、理解を得るようにしている
6-2-2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている
6-3-1	必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、乳幼児の課題を個別のサービス場面ごとに明示している
6-3-2	乳幼児の様子や保護者等の希望、関係者の意見を取り入れた自立支援計画を作成している
6-3-3	乳幼児に関する記録を適切に作成する体制を確立している
6-3-4	乳幼児の状況等に関する情報を職員間で共有化している
6-5-1	乳幼児のプライバシー保護を徹底している
6-5-2	サービスの実施にあたり、乳幼児の権利を守り、個人の意思を尊重している
6-6-1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている
6-6-2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

はじめに、カテゴリー 6 の 4 サービスの実施項目を除いた、サービス提供のプロセス項目の変更について説明します。

オレンジ色の項目について、今回変更がありました。

詳しくは次のスライドで説明します。

6-2-1 サービスの開始にあたり保護者等に説明し、理解を得ている

6-2-1 サービスの開始にあたり保護者等に説明し、理解を得るようになっている

1	サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を保護者等の状況に応じて説明している
2	サービス内容について、保護者等の理解を得ようとしている
3	サービスに関する説明の際に、保護者等の意向を確認し、記録化している

1	サービスの開始にあたり、 <b>施設の基本的ルール(約束ごと)、権利擁護の取り組みをはじめとした</b> 重要な事項等を保護者等の状況に応じて説明している
2	サービス内容について、保護者等の理解を得ようとしている
3	サービスに関する説明の際に、保護者等の意向を確認し、記録化している

まず、評価項目「サービスの開始にあたり保護者等に説明し、理解を得るようになっている」についてです。

サービスの開始にあたり保護者等から理解を得ることが困難な場合を考慮し「理解を得るようになっている」として、保護者等から理解を得られるような説明の工夫等を確認できるよう文言を変更しました。

標準項目1については、基本的ルールという文言の後ろにカッコ書きで「約束ごと」と追記しました。

これは、児童小ワーキングにて、「社会的養護の現場では利用者に対してルールという表現をあまり使わないため、項目上でも反映をしたい」という議論があり、反映を行ったものです。

また、児童養護施設の見直しに倣い、重要な事項等の前に「権利擁護の取り組みをはじめとした」と追記しました。

### 6-2-2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

1	サービス開始時に、乳幼児の支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
2	利用開始直後には、乳幼児の不安やストレスが軽減されるように支援を行っている
3	サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている
4	サービスの終了時には、乳幼児や保護者等の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている

### 6-2-2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

1	サービス開始時に、乳幼児の支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
2	利用開始直後には、乳幼児の不安やストレスが軽減されるように支援を行っている
3	入所以前の生活習慣等をふまえた支援を行っている
4	サービスの終了時には、乳幼児や保護者等の不安を軽減し、退所後の支援の継続性にも配慮している

続いて、評価項目「サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている」ですが、標準項目3について、児童養護施設に倣い、「入所以前の生活習慣等」と文言を変更しました。

標準項目4については、児童養護施設に倣い「退所後の」と明記することで、サービス終了時に、退所後の支援の継続に向けた取り組みがあるか、確認できるようにしました。

なお、退所後に実施する支援については、カテゴリー6の4サービスの実施項目に行うものとし、この評価項目では終了時の手続きについて評価します。

		乳児院	
6-3-2 乳幼児の様子や保護者等の希望、関係者の意見を取り入れた自立支援計画を作成している		6-3-2 乳幼児の様子や保護者等の希望、関係者の意見を取り入れた自立支援計画を作成している	
1	計画は、乳幼児の様子や保護者等の希望を尊重して作成、見直しをしている	1	計画は、 <b>乳幼児の最善の利益を第一に</b> 、乳幼児の様子や保護者等の希望を <b>適切に反映</b> して作成、見直しをしている
2	計画を保護者等にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている	2	計画を保護者等にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている
3	計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	3	計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直 <b>すとともに、緊急に支援内容を変更する必要が生じた場合の対応や計画変更のしくみを整備している</b>
4	計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している		

続いて、評価項目「乳幼児の様子や保護者等の希望、関係者の意見を取り入れた自立支援計画を作成している」についてです。

標準項目1については、児童養護施設に倣い、「計画は、乳幼児の最善の利益を第一に、乳幼児の様子や保護者等の希望を適切に反映して作成、見直しをしている」と変更しました。

これは、平成28年に改正した児童福祉法で「全て国民は児童の最善の利益が優先して考慮され、心身ともに健やかに育成されるよう努めること」と掲げられたことを受け、見直したものです。

なお、児童の最善の利益については、生活習慣の改善を図る等の事情によっては、保護者等の希望を反映することが児童の最善の利益につながることも考えられます。

そのため、「適切に反映」としております。

標準項目3については、見直し前の標準項目3と標準項目4を1つの項目に統合しました。

これにより、見直しの時期や手順等の基準を定めて必要に応じて計画を見直ししているか、緊急に支援内容を変更する必要が生じた場合、計画変更のしくみが整備されているかが、1つの項目で確認できるようになりました。

		乳児院	
6-3-3 乳幼児に関する記録が行われ、管理体制を確立している		6-3-3 乳幼児に関する記録を適切に作成する体制を確立している	
1	乳幼児一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	1	乳幼児一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある
2	計画に沿った具体的な支援内容と、その結果乳幼児の状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	2	計画に沿った具体的な支援内容と、その結果乳幼児の状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している

続いて、評価項目「乳幼児に関する記録を適切に作成する体制を確立している」についてです。

次の評価項目6の3の4で、乳幼児の情報を職員間で共有化しているかを確認するにあたり、情報の記載の仕方が統一されていて共有がしやすいかなど、適切に記録を作成する体制を確立しているか評価できるように変更しました。



## ② サービスの実施項目

6-4-1	個別の自立支援計画に基づいて乳幼児一人ひとりに応じた支援を行っている
6-4-2	家族等との関係構築に向けた取り組みを行っている
6-4-3	乳幼児の発達を促すための支援を行っている
6-4-4	乳幼児が楽しく安心して食事ができるようにしている
6-4-5	施設での生活が、乳幼児にとって安心して快適なものとなるよう支援を行っている
6-4-6	乳幼児一人ひとりの健康を維持できるよう支援を行っている
6-4-7	地域との連携のもとに乳幼児の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

続いてはカテゴリー 6 の 4 にあたる、サービスの実施項目について説明します。

オレンジ色の項目について、今回変更がありました。

6-4-1 個別の自立支援計画に基づ		乳児院
6-4-1 個別の自立支援計画に基づいて乳幼児一人ひとりに応じた支援を行っている		<div>1 個別の自立支援計画に基づいて支援を行っている</div> <div>2 乳幼児一人ひとりの気持ちや要求に対し理解を深めるための取り組みを行っている</div> <div>3 乳幼児一人ひとりに応じて適切な愛着関係を築く取り組みをしている</div> <div>4 小規模なグループでケアを行うなど乳幼児が家庭的な環境の中で生活できるよう支援を行っている</div> <div>5 退所後の安定した生活基盤の確保に向け、関係機関や専門機関と連携をとって、退所後の生活を見越した支援を行っている</div> <div>6 退所後は計画に基づいて、一人ひとりに応じた支援を関係機関と連携して行っている</div>
5	関係機関や専門機関と連携をとって、支援を行っている	
6	退所後は計画に基づいて、一人ひとりに応じた支援を行っている	

まず、評価項目「個別の自立支援計画に基づいて乳幼児一人ひとりに応じた支援を行っている」についてです。

標準項目5については、「退所後の生活を見越した支援」を「関係機関や専門機関と連携をとって行っているか」が確認できるよう、児童養護施設に倣い変更しました。

標準項目6についても児童養護施設に倣い、「退所後は計画に基づいて、一人ひとりに応じた支援」を、「関係機関と連携して行っている」かが確認できるよう変更しました。

評価項目及び他の標準項目については、変更ありません。

6-4-2 家族等との関係構築に向けた取り組みを行っている		6-4-2 家族等との関係構築に向けた取り組みを行っている		乳児院
1	乳幼児や保護者等の状況、意向・希望を把握し、家庭関係の調整を行っている	新設	1	家庭支援専門相談員を中心に、家族等との関係構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている
2	家族との再統合に向け、保護者等の意向をふまえて、児童相談所等と連携をとっている		2	乳幼児の最善の利益を第一に乳幼児の様子や保護者等の意向を確認しながら、関係機関と連携をとって、乳幼児と家族の関係調整に取り組んでいる
4	家族との再統合が難しい場合、養子縁組や養育家庭を必要とする乳幼児が、機会を逃さず制度を活用できるよう児童相談所と連携をとっている		3	乳幼児の状況と安全に配慮しながら、保護者等との面会・外出・外泊を行っている
			4	養育家庭や養子縁組等の制度が有効に活用されるよう児童相談所と連携をとっている
			5	入所中の乳幼児の家族等(里親を含む)に対し、退所後の生活を想定したさまざまな支援を行っている

続いて、評価項目「家族等との関係構築に向けた取り組みを行っている」ですが、標準項目1については、乳児院に家庭支援専門相談員の職員配置があることから、児童養護施設に倣い項目を新設しました。

標準項目2については、見直し前の標準項目1と標準項目2を統合しました。

改正した児童福祉法の趣旨を踏まえ「乳幼児の最善の利益を第一に」と追記し、見直し前の標準項目2にあった「家族との再統合」を結果の一つとした「乳幼児と家族の関係調整の取り組み」を広く評価できるようにしました。

標準項目4については、東京都社会的養育推進計画の理念に「子供が家庭において健やかに養育されることを原則とした上で、家庭における養育が困難な場合は、家庭と同様の環境における養育を優先し、里親等への委託を推進する」と掲げられていることから、養育家庭や養子縁組等の制度が有効に活用されるよう、児童相談所との連携について確認できるようにしました。

文言については、児童養護施設の見直しと合わせる形で変更しております。

		乳児院	
6-4-4 乳幼児が楽しく安心して食事ができるようにしている		6-4-4 乳幼児が楽しく安心して食事ができるようにしている	
1	乳幼児の状態や嗜好に応じて献立を工夫している	1	楽しい食事となるような環境を整えている
2	乳幼児の状態に応じて食事を提供している	2	授乳は乳幼児が安心した状態で受けられるよう配慮して行っている
3	授乳は乳幼児が安心した状態で受けられるよう配慮して行っている	3	食事の献立は、乳幼児の状態（食物アレルギーや疾患等に関する主治医等の指示を含む）や嗜好に応じて工夫している
4	楽しい食事となるような環境を整えている	4	食習慣の確立や食についての関心向上のため、関係職員と連携して食育の推進に取り組んでいる
5	食についての関心を深めるための取り組みを行っている		

続いて、評価項目「乳幼児が楽しく安心して食事ができるようにしている」ですが、標準項目1については、見直し前に4番目にあったものを1番目に移動しました。

標準項目3については、見直し前の標準項目1と標準項目2を統合しました。

標準項目4については、見直し前は5番目の標準項目でしたが、前の項目を統合したことにより、順序を4番目に変更しました。

また児童養護施設に倣い「食習慣の確立や食についての関心向上のため、関係職員と連携して食育の推進に取り組んでいる」と具体的に記載しました。

なお、「関係職員」は、職員配置がある栄養士及び調理員を主に指しています。

		乳児院	
6-4-5 施設での生活が、乳幼児にとって安心して快適なものとなるよう支援を行っている		6-4-5 施設での生活が、乳幼児にとって安心して快適なものとなるよう支援を行っている	
1	居室や共有スペースは、乳幼児の状況に応じて、安全性や快適性に配慮したものとなっている	1	居室や共有スペースは、乳幼児の状況に応じて、安全性や快適性に配慮したものとなっている
2	静けさや明るさの環境に配慮するなど、乳幼児が心地よい眠りにつけるようにしている	2	静けさや明るさの環境に配慮するなど、乳幼児が心地よい眠りにつけるようにしている
3	居室は乳幼児がくつろげる環境になるよう配慮している	3	多様な体験を楽しめるような行事やイベント等を実施している
4	多様な体験を楽しめるような行事やイベント等を実施している		

評価項目「施設での生活が、乳幼児にとって安心して快適なものとなるよう支援を行っている」ですが、標準項目 1 については、見直し前の標準項目 1 と標準項目 3 を統合しました。

項目の内容は、標準項目 1 のまま変更ありません。

標準項目 3 については、見直し前は 4 番目の標準項目でしたが、前の項目を統合したことにより、順序を 3 番目に変更したものです。

6-4-6 乳幼児一人ひとりの健康を維持できるよう支援を行っている		6-4-6 乳幼児一人ひとりの健康を維持できるよう支援を行っている		乳児院
1	乳幼児突然死症候群(SIDS)や窒息等の予防に関するしくみがある	1	乳幼児突然死症候群(SIDS)や窒息等の予防に関するしくみがある	
2	乳幼児の服薬管理には誤りがないようチェック体制の強化などしくみを整えている	2	乳幼児の服薬管理には誤りがないようチェック体制の強化などしくみを整えている	
3	乳幼児の体調に変化(発作等の急変を含む)があったときには、医療機関等と速やかに連絡が取れる体制を整えている	3	医療機関と連携しながら、日頃の健康管理を行い、乳幼児の体調に変化があったときには、速やかに対応できる体制を整えている	
4	乳幼児の健康に関して、必要に応じて他職種の職員や外部の専門家と連携をとり対応している	4	病・虚弱児等の健康管理について、日常生活上で適切な対応策をとっている	
		5	乳幼児と保護者等に必要な心理的支援を行っている	

続いて、評価項目「乳幼児一人ひとりの健康を維持できるよう支援を行っている」についてです。

標準項目3については、見直し前の標準項目3と標準項目4を統合することで、医療機関と連携した日頃の健康管理と、緊急時すみやかに対応できる体制について、1つの項目で確認できるよう整理しました。

標準項目4については、東京都社会的養育推進計画に「児童のケアニーズに応じた治療的・専門的ケアの充実を図るため、精神的・心理的問題の改善のための取組の強化」が掲げられたことを受け、国の第三者評価基準に倣い、ケアニーズが高い児童について日常生活上で適切に対応できる体制があるか確認できるよう項目を新設しました。

標準項目5については、改正した児童福祉法に「国及び地方公共団体は、児童が家庭において心身ともに健やかに養育されるよう、児童の保護者を支援しなければならない。」と掲げられたこと、そして、東京都社会的養育推進計画に「集中的な在宅支援が必要な家庭に対して、保護者の心身の安定と育児への負担感の軽減を図るケアの充実など、確実に支援を届けることが求められる」と記載されたことを受け、国の第三者評価基準に倣い、乳幼児と併せて保護者等への心理的支援についても確認できるよう項目を新設しました。

。

## 2 母子生活支援施設の項目 見直しについて

続いては、母子生活支援施設の項目見直しについてです。

## ① サービス提供のプロセス項目

6-1-1	子どもや母親等に対してサービスの情報を提供している
6-2-1	サービスの開始にあたり子どもや母親に説明し、理解を得るようにしている
6-2-2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている
6-3-1	定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもや母親の課題を個別のサービス場面ごとに明示している
6-3-2	子どもや母親の希望と関係者の意見を取り入れた自立支援計画を作成している
6-3-3	子どもや母親に関する記録を適切に作成する体制を確立している
6-3-4	子どもや母親の状況等に関する情報を職員間で共有化している
6-5-1	子どもや母親のプライバシー保護を徹底している
6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもや母親の権利を守り、個人の意思を尊重している
6-6-1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている
6-6-2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

まず、カテゴリー 6 の 4 サービスの実施項目を除いた、サービス提供のプロセス項目の変更について説明します。

オレンジ色の項目について、今回変更がありました。



6-1-1 利用者等に対してサービスの情報を提供している

6-1-1 **子どもや母親**等に対してサービスの情報を提供している

1	利用者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている
2	事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
3	利用者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している

1	<b>子どもや母親</b> の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている
2	事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
3	<b>子どもや母親</b> の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している

評価項目「子どもや母親等に対してサービスの情報を提供している」についてですが、評価項目及び標準項目1、標準項目3においてこれまで「利用者」としていた主語を「子どもや母親」に変更しました。

評価項目及び標準項目の内容に関する変更はありません。

なお、主語については、6の1の1以降の評価項目及び標準項目においても、全て「子どもや母親」に変更しております。

このスライド以降、主に内容に関する変更について説明します。

6-2-1 サービスの開始にあたり利用者に説明し、同意を得ている

6-2-1 サービスの開始にあたり子どもや母親に説明し、理解を得るようにしている

1	サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を利用者の状況に応じて説明している	1	サービスの開始にあたり、施設の基本的ルール(約束ごと)、権利擁護の取り組みをはじめとした重要な事項等を子どもや母親の状況に応じて説明している
2	サービス内容について、利用者の同意を得るようにしている	2	サービス内容について、子どもや母親の同意を得るようにしている
3	サービスに関する説明の際に、利用者の意向を確認し、記録化している	3	サービスに関する説明の際に、子どもや母親の意向を確認し、記録化している

続いて、評価項目「サービスの開始にあたり子どもや母親に説明し、理解を得るようにしている」ですが、提供されるサービスについて説明を受けて子どもや母親が同意したのち、同意した内容について不服を申し立てた場合、すみやかに退去に至るといった誤解を招かないよう、児童養護施設に倣い「理解を得るようにしている」と変更することで、理解を得られるような説明の工夫などを確認できるようにしました。

標準項目1については、基本的ルールという文言の後ろにカッコ書きで「約束ごと」と追記しました。乳児院で同様の変更を説明したとおり、児童小フーキングにおける議論を受けて反映しました。

また、児童養護施設の見直しに倣い、重要な事項等の前に「権利擁護の取り組みをはじめとした」と追記しました。

6-2-2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

1	サービス開始時に、利用者の支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
2	利用開始直後には、利用者の不安やストレスが軽減されるように支援を行っている
3	サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている
4	サービスの終了時には、利用者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている

6-2-2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

1	サービス開始時に、 <b>子どもや母親</b> の支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
2	利用開始直後には、 <b>子どもや母親</b> の不安やストレスが軽減されるように支援を行っている
3	<b>入所以前の生活習慣等</b> をふまえた支援を行っている
4	サービスの終了時には、 <b>子どもや母親</b> の不安を軽減し、 <b>退所後の支援の継続性にも配慮</b> している

続いて、評価項目「サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている」についてです。

標準項目3について、児童養護施設に倣い、「入所以前の生活習慣等」と変更しました。

また、標準項目4については、児童養護施設に倣い「退所後の」と明記することで、サービス終了時に、退所後の支援の継続に向けた取り組みがあるか確認できるようにしました。

なお、退所後に実施する支援については、カテゴリ6の4サービスの実施項目において行うものとし、この評価項目では終了時の手続きについて評価します。

6-3-1 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している



6-3-1 定められた手順に従ってアセスメントを行い、**子どもや母親**の課題を個別のサービス場面ごとに明示している

1	利用者の心身の状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
2	利用者一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
3	アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている



1	<b>子どもや母親</b> の心身の状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
2	<b>子どもや母親</b> 一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
3	アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている

こちらは評価項目及び標準項目の主語のみの変更で、内容についての変更はありません。

6-3-2 利用者の希望と関係者の意見を取り入れた自立支援計画を作成している

6-3-2 子どもや母親の希望と関係者の意見を取り入れた自立支援計画を作成している

1	計画は、利用者の希望を尊重して作成、見直しをしている
2	計画を利用者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている
3	計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている
4	計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している

1	計画は、 <b>子どもの最善の利益を第一に、子どもや母親の希望を適切に反映</b> して作成、見直しをしている
2	計画を <b>子どもや母親</b> にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている
3	計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて <b>見直すとともに、緊急に支援内容を変更する必要が生じた場合の対応や計画変更のしくみを整備</b> している

続いて、評価項目「子どもの希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している」についてですが、標準項目1は乳児院の変更と同様に、改正した児童福祉法の内容を反映したものです。

母子生活支援施設は児童福祉施設であり、子どもや母親への支援は子どもの最善の利益を鑑みて行われるべきであるため、「子どもの最善の利益を第一に」としています。

また、児童自立支援施設でも説明したとおり、児童の最善の利益については、児童の希望を叶えることのみを指すものではなく、生活習慣の改善を図るなどの事情によっては、子どもの希望を反映しないことが児童の最善の利益につながることも考えられます。

標準項目3については、見直し前の標準項目3と標準項目4を統合しました。

これにより、見直しの時期や手順等の基準を定めて必要に応じて計画を見直ししているか、緊急に支援内容を変更する必要が生じた場合、計画変更のしくみが整備されているかが、1つの項目で確認できるようになりました。

6-3-3 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している



6-3-3 子どもや母親に関する記録を適切に作成する体制を確立している

1	利用者一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある
2	計画に沿った具体的な支援内容と、その結果利用者の状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している



1	子どもや母親一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある
2	計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもや母親の状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している

続いて、評価項目「子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している」についてです。

次の評価項目6の3の4で、子どもや母親の情報を職員間で共有化しているかを確認するにあたり、情報の記載の仕方が統一されていて共有がしやすいかなど、適切に記録を作成する体制を確立しているか評価できるように変更しました。

6-3-4 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している



6-3-4 子どもや母親の状況等に関する情報を職員間で共有化している

1	計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している
2	申し送り・引継ぎ等により、利用者に変化があった場合の情報を職員間で共有化している



1	計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している
2	申し送り・引継ぎ等により、子どもや母親に変化があった場合の情報を職員間で共有化している

続いて、評価項目6の3の4ですが、こちらは評価項目及び標準項目の主語のみの変更で、内容についての変更はありません。

## 6-5-1 利用者のプライバシー保護を徹底している

## 6-5-1 子どもや母親のプライバシー保護を徹底している

1	利用者に関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、利用者の同意を得るようにしている
2	個人の所有物や郵便物の扱い、居室への職員の出入り等、日常の支援の中で、利用者のプライバシーに配慮した支援を行っている
3	利用者の羞恥心に配慮した支援を行っている

1	子どもや母親に関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、子どもや母親の同意を得るようにしている
2	個人の所有物や郵便物の扱い、居室への職員の出入り等、日常の支援の中で、子どもや母親のプライバシーに配慮した支援を行っている
3	子どもや母親の羞恥心に配慮した支援を行っている

評価項目 6 の 5 の 1 も評価項目及び標準項目の主語のみの変更で、内容について変更はありません。



6-5-2 サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している

6-5-2 サービスの実施にあたり、**子どもや母親**の権利を守り、個人の意思を尊重している

1	日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(利用者が「ノー」と言える機会を設けている)
2	居室内での虐待等不測の事態が起きないよう見守る体制を整えている
3	利用者一人ひとりの価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている

1	<b>意見を表明しやすい環境をつくるなど、子どもや母親(保護者として)の権利が守られるように取り組んでいる</b>
2	居室内での虐待等不測の事態が起きないよう見守る体制を整えている
3	<b>子どもや母親一人ひとりの価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている</b>

続いて、評価項目「サービスの実施にあたり、子どもや母親の権利を守り、個人の意思を尊重している」についてです。

標準項目1については、児童福祉法の精神とされている「児童の権利に関する条約」にて、「児童が自由に自己の意見を表明する権利」など各権利の尊重が掲げられていることを受け、子どもが意見を表明しやすい環境をつくるなどの権利擁護に向けた取り組みがあるか確認できるようにしました。

また、母親については、子どもの保護者として施設に意見を表明しやすいなど、保護者としての権利擁護に向けた取り組みもあるか確認できるようにしております。

6-6-2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

1	提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている
2	提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や利用者等からの意見や提案を反映するようにしている



6-6-2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

1	提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている
2	提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども、母親等からの意見や提案を反映するようにしている

評価項目 6 の 6 の 2 は標準項目の主語のみの変更で、内容の変更はありません。

## ② サービスの実施項目

6-4-1	個別の自立支援計画に基づいて、自立のための支援を行っている
6-4-2	子どもの健全育成のための支援を行っている
6-4-3	母親の子育てを支援するためのさまざまな取り組みを行っている
6-4-4	自立に向けた生活支援や就労支援等のさまざまな取り組みを行っている
6-4-5	子どもや母親が心身の健康を維持するための支援を行っている
6-4-6	子どもや母親の生活が安心・安定したものとなるよう、主体性を尊重した支援を行っている
6-4-7	地域との連携のもとに子どもや母親の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

続いては、カテゴリー 6 の 4 にあたる、サービスの実施項目について説明します。

オレンジ色の項目について、今回変更がありました。

6-4-1 個別の自立支援計画に基づいて、自立のための支援を行っている		6-4-1 個別の自立支援計画に基づいて、自立のための支援を行っている		母子生活
1	利用者一人ひとりに合った方法で、利用者と職員の信頼関係を構築するために受容的・支持的な関わりをしている	1	個別の自立支援計画に基づいて支援を行っている	
2	必要に応じて、家族間・親族間の関係修復の支援を行っている	2	子どもや母親一人ひとりに合った方法で、職員との信頼関係を構築するために受容的・支持的な関わりをしている	
3	関係機関や専門機関と連携をとって、支援を行っている	3	必要に応じて、家族間・親族間の関係調整の支援を行っている	
4	退所後は計画に基づいて、一人ひとりに応じた支援を行っている	4	退所後の安定した生活基盤の確保に向け、関係機関や関係職員、専門機関と連携をとって、退所後の生活を見越した支援を行っている	
5		5	退所後は計画に基づいて、一人ひとりに応じた支援を関係機関や関係職員と連携して行っている	

まず、評価項目「個別の自立支援計画に基づいて、自立のための支援を行っている」ですが、標準項目2については、主語を「子どもや母親」にするとともに「職員との信頼関係」と文言を整理しました。

標準項目3については、近すぎる家族関係を少し距離を取るよう調整するといった対応もあり得ることから、国の第三者評価基準に倣い「関係調整の支援」としました。

標準項目4については、「退所後の生活を見越した支援」を「関係機関や関係職員、専門機関と連携をとって行っているか」が確認できるよう児童養護施設に倣い変更しております。

標準項目5についても児童養護施設に倣い、「退所後は計画に基づいて、一人ひとりに応じた支援」を、「関係機関や関係職員と連携して行っている」かが確認できるよう文言を変更しました。

なお、標準項目4及び標準項目5における「関係職員」は、福祉事務所に所属する母子・父子自立支援員を主に指しています。

標準項目1については、変更はありません。

6-4-2 子どもの健全育成のための		母子生活	
6-4-2 子どもの健全育成のための支援を行っている		支援を行っている	
		1	子どもの自主性、協調性を育てる取り組みを行っている
		2	子ども一人ひとりの状況に応じた学習支援を行っている
3	学校等の関係機関と必要に応じて、情報交換をしている	3	学校等の関係機関との役割分担を行い、必要に応じて、情報交換をしている
4	子どもの心の悩みなどの問題に対応する取り組みを行っている	4	子どもの心の悩みなどの課題に対応できるように工夫している
5		5	子どもの年齢に応じた生活力を身につけられるよう支援を行っている
6	食についての関心を深めるための取り組みを行っている	6	食習慣の確立や食育に関心を深めるための支援を行っている

続いて、評価項目「子どもの健全育成のための支援を行っている」についてです。

標準項目3については、国の第三者評価基準解説書にて、「児童相談所・保育所・学校・福祉事務所等の関係機関と、ケースカンファレンスで意見交換を行い、その中で役割分担をしてそれぞれの立場から支援を行っていくことが必要」と記載があることから、東京都の項目においても「関係機関との役割分担を行い」と記載したものです。

標準項目4については、東京都社会的養育推進計画にて「課題」と記載がされているため、それに倣い「課題」としました。併せて、児童養護施設に倣い、「対応できるように工夫している」と変更することで、施設の子どもの心の悩みなどの課題に対する取り組みをより引き出しやすくしました。

標準項目6については、「食習慣の確立や食育に関心を深めるための支援」と具体的に記載しました。

なお、母子生活支援施設において食事提供は各世帯で行われており、食習慣の確立や食育に関心を深めるための支援は、施設から母親、施設から子どもなど、世帯の特徴に応じた適切な対象者に行われることが想定されます。

標準項目1、標準項目2、標準項目5については、変更はありません。

		母子生活	
6-4-4 自立に向けた生活支援や就労支援等のさまざまな取り組みを行っている		6-4-4 自立に向けた生活支援や就労支援等のさまざまな取り組みを行っている	
2	母親の適性、経験、意向等をふまえて、就職準備のための支援を行っている	1	基本的な生活習慣及び生活知識・技術を身につけられるよう支援を行っている
		2	母親の適性、経験、意向等をふまえて、 <b>就労支援</b> を行っている
		3	安定・継続した就労のために、必要に応じて就労先との調整を行っている
		4	母親の状況(体調不良、就職活動など)に応じた保育サービスを行っている
		5	経済的自立のための相談や支援を行っている

評価項目「自立に向けた生活支援や就労支援等のさまざまな取り組みを行っている」ですが、標準項目2については、国の第三者評価基準に「**就労支援**」と記載されているため、それに倣い変更しました。

評価項目及び他の標準項目について変更はありません。

6-4-5 利用者が心身の健康を維持するための支援を行っている

6-4-5 子どもや母親が心身の健康を維持するための支援を行っている

1	必要に応じて主治医と連携し、病状、薬の説明や指示どおりの服薬等の療養支援を行っている
2	心身のケアが必要な利用者に対しては、専門家と連携して支援を行っている

1	必要に応じて医療機関等と連携し、病状、薬の説明や指示どおりの服薬等の療養支援を行っている
2	心身のケアが必要な子どもや母親に対しては、医療機関等と連携して支援を行っている

続いて、評価項目「子どもや母親が心身の健康を維持するための支援を行っている」ですが、標準項目1及び標準項目2については、児童養護施設に倣い、「主治医」や「専門家」という文言を「医療機関等」と変更しました。

6-4-6 利用者の生活が安心・安定したものとなるよう、自主性を尊重した支援を行っている

6-4-6 子どもや母親の生活が安心・安定したものとなるよう、主体性を尊重した支援を行っている

1	生活ルールの設定やスペースの提供などは利用者の意向を尊重して行っている
2	施設の行事や利用者の活動は、楽しく参加できる工夫をしている
3	共有スペースは、利用者の安全性や快適性に配慮したものとなっている

1	生活ルールの設定やスペースの提供などは子どもや母親の意向を尊重して行っている
2	施設の行事や活動は、子どもや母親が参画しやすいように工夫し、計画・実施している。
3	共有スペースは、子どもや母親の安全性や快適性に配慮したものとなっている

評価項目「子どもや母親の生活が安心・安定したものとなるよう、主体性を尊重した支援を行っている」については、児童養護施設及び他のサービスと文言を統一する形で「主体性」と変更しました。

また、標準項目2については、国の第三者評価基準の「行事などのプログラムは、母親や子どもが参画しやすいように工夫し、計画・実施している」という項目に倣い、参画しやすいような工夫について確認できるようにしました。



6-4-7 地域との連携のもとに  
利用者の生活の幅を広げるため  
の取り組みを行っている



6-4-7 地域との連携のもとに  
**子どもや母親**の生活の幅を広げる  
ための取り組みを行っている

1	利用者にとって必要な情報を 収集し、活用できるように提供 している
2	地域の社会資源を、利用者が 実生活で活用できるように支 援を行っている



1	<b>子どもや母親</b> にとって必要な 情報を収集し、活用できるよ うに提供している
2	地域の社会資源を、 <b>子どもや 母親</b> が実生活で活用できるよ うに支援を行っている

続いて、評価項目6の4の7ですが、こちらは評価項目及び標準項目の主語  
のみの変更で、内容の変更はありません。

母子生活支援施設の項目見直しに関する説明は以上です。

### 3 評価手法について(変更なし)

次は、講義内容の3点目、評価手法について説明します。

### 【評価実施に係る人数】

自立援助ホームを除き、3名以上の評価者が一貫して行う

※自立援助ホームのみ、2名以上の評価者で実施可

### 【利用者調査】

(調査対象)

利用者本人※乳児院のみ家族等含む

(調査方法)

乳児院を除き、聞き取り方式又はアンケート方式

※乳児院については、場面観察方式と家族等に対してアンケート調査を実施

(その他)

乳児院以外のサービスで、有効回答者数が3未満になった場合は場面観察方式を別途実施する

### 【任意に実施する共通評価項目(組織マネジメント項目の一部)】

自立援助ホームのみ対象

### 【利用者調査とサービス項目を中心とした評価】

対象外

児童養護施設、乳児院、児童自立支援施設、自立援助ホーム、母子生活支援施設の評価手法について、今回の項目見直しに伴う変更はありません。

## 4 お願い

**評価を行う際には、項目解説書をお読みいただいた上で、実施いただきますようお願いいたします。（ガイドブック巻末CDにデータあり）**

最後にお願いになりますが、ガイドブックに添付したCDに収録されている「項目解説書」についてもお読みいただいた上で、評価を実施いただきますようお願いいたします。



共通評価項目の見直しに関する説明は以上となります。

講義Ⅲの内容に関して、確認テストに進んでください。